

研修会報告

平成 29 年 10 月 26 日

文責：播磨 晋太郎

研修会名：生物化学分析部門研修会

テーマ：「外部精度管理を活用するための基礎知識」

開催日時：平成 29 年 10 月 21 日（土曜日）14：00 ~17：00

会場：東北大学医学部保健学科 大講義室

<プログラム>

【講演 1】

サーベイに適した試料の調整一日臨技サーベイ試料を例に挙げて—

和光純薬工業株式会社 小田垣 真一 先生

【講演 2】

臨床化学自動分析装置から正しい検査結果を得るための基礎知識

積水メディカル株式会社 市原 文雄 先生

【講演 3】

定量検査法のバリデーションの必要性

岩手医科大学附属病院 中央臨床検査部 斎藤 篤 先生

生涯教育点数：専門 20 点

参加者 会員 38 名、講師 3 名、実務委員 3 名、計 44 名

【内容】

研修会は「外部精度管理を活用するための基礎知識」をテーマとし、外部精度管理調査への取り組み方及び日常業務へ反映するための基礎知識を学ぶことで、自施設での精度保証へ繋げる事を目的としました。はじめに、和光純薬工業株式会社の小田垣真一先生より一日臨技の精度管理調査で使用されている試料の作製方法と特徴についてご講演いただきました。集計データから大多数の項目は一括評価が行われていますが、脂質項目については試料作製時の凍結融解の影響により、メーカー別に評価せざるを得ない現状が理解できました。つぎに、積水メディカル株式会社の市原文雄先生より臨床化学自動分析装置から正しい検査結果を得るための基礎知識についてご講演いただきました。外部精度管理調査はあくまでも日常業務の延長線上にあるという事を再認識する内容でした。また、疾患や薬剤による異常反応の症例を多く提示して頂き、日常業務を見直す必要性を認識しました。

講演 3 では岩手医科大学附属病院中央臨床検査部の斎藤篤先生より定量検査法のバリデーションの必要性についてのご講演をいただきました。他施設と測定精度の比較を行うためには、必須事項となる事項であるが、未だに理解されていない現状であるというお話でしたが、実際にバリデーションソフトを用いるなど、難しい内容を丁寧に説明して頂きました。

臨床化学分野は自動化と標準化が進み、明日からすぐに活用できる知識を得ることが難しい状況になってきていますが、今後も日常業務を再確認できるような研修会を企画したいと思います。